

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

性暴力被害支援チーム研修開発に関する研究

1. 研究の対象

研究1 2017年7月～2018年3月の期間のSART研修会参加者である。男女を含み、謝礼はない。研究の概要と対象者、募集方法は、WEBおよびチラシによりネットで申し込む。研修参加者にアンケートを配布し回答の有無により参加の意思確認とする。回収は、研修当日の終了の際に、回収ボックスを備え行う。

研究2

研究対象は、実践家（看護師、医療関係者等）、地域での支援者、大学関係者等とする。

- ①研究者間のネットワークにより、当該の情報提供者をピックアップする。
- ②電話やメール等で個人インタビューを行う研究依頼の打診を行う。
- ③文書にて、研究依頼の承諾を確認する。承諾書にはテープお越しについてのあらかじめ説明し、承諾を得る。協力者の依頼があれば所属長の承諾書を得る。
- ④研究協力者には、謝金をお支払する。

2. 研究目的・方法

研究1

<目的>

海外での性暴力被害者支援においては、医療、警察、司法、福祉、被害者へのアドボケート組織等が相互の理解の基に、ネットワークを作る「性暴力対応チーム（Sexual Assault Response Team: SART）の充実が、被害直後から長期のフォローアップ、被害の予防活動において実績をあげている。その中で、被害直後の急性期に対応できる看護師は、各関連機関と連携し、調整能力を発揮する事が必要となる。そこで、平成28年度文部科学省科学研究費の助成（基盤B、研究代表者加納尚美、茨城県立医療大学教授）を受けて、地域に根差したSART研修を実施し、評価を行うことを本研究の目的とする。また、今後の看護師の活動範囲および活動方法について関係者に意見を伺い、制度設計の資料とする。

<方法>

研究手法：対象者は、研修参加者20～30名である。研修終了後にアンケート調査。

所要時間：7～10分程度を研修終了時にアンケート記載が必要である。

謝礼はない。

<研究期間>

2017年7月～2018年3月

研究2

<目的>

地域に根差した SART 研修を実施し、評価を行うことを本研究の目的とする。そのために、今後の看護師の活動範囲および活動方法について関係者に意見を伺い、制度設計の資料とし、研修に反映させる。

<方法>

研究協力者の募集方法等

研究者間のネットワークにより、当該の情報提供者をピックアップする。合計 10 名程度とする。

調査方法：

- ①関連資料（研究目的、調査内容、倫理的配慮を記載）については郵送またはメール添付にて理解していただき、その上で電話やメール等で研究の主旨を伝え依頼の打診を行う。
- ②研究対象者の同意手続きは、研究承諾書にて、研究依頼の承諾をいただき、同意を得たと判断する。
- ③研究協力者には、謝金としてクオカード等をお支払する。
- ④面接場所は、協力者の都合に合わせて相談し決定する。

研究手法：

半構造化面接法により、個人インタビューを実施する。インタビューに際しては、承諾を得ることができれば、音声を録音する。カリキュラムの開発に必要な要素を明らかにする。所要時間：約 40 分間程度。インタビューの枠組みは、性暴力被害の実態、被害者のニーズの把握、支援状況、職種や役割による活動方針、多職種協働についての考え

分析方法：

記録から一文一義の文章を抽出しデータ化する。データの意味内容の共通性に基づいて質的帰納的方法によりカテゴリ化し、カリキュラム開発に含まれる因子を導出する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

アンケート以外に特になし。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

研究代表者：問合わせ：茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美

電話：029-840-2181 e-mail kanou@ipu.ac.jp

研究責任者：茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美